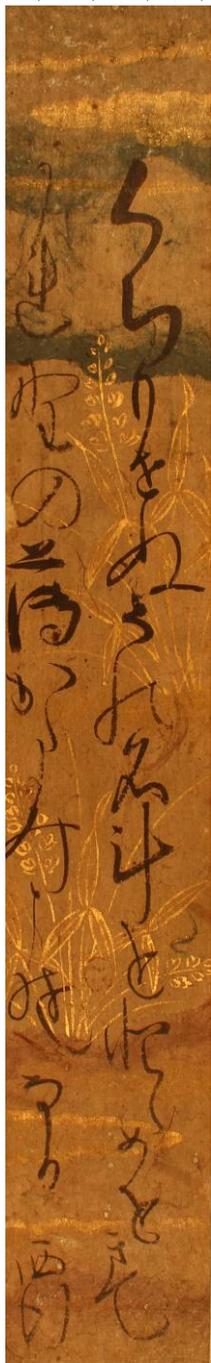


西行歌 「朽ちもせぬ」

図書館長 下西忠

高野山大学図書館所蔵篠田禹子のぶこ文庫西行短冊

朽ちもせぬ その名ばかりを とどめ置きて 枯野の薄 形見にぞ見る(西行 山家集)

この和歌は、西行が現在の宮城県名取市愛島塩手にある藤原実方の墓前で詠んだ歌である。

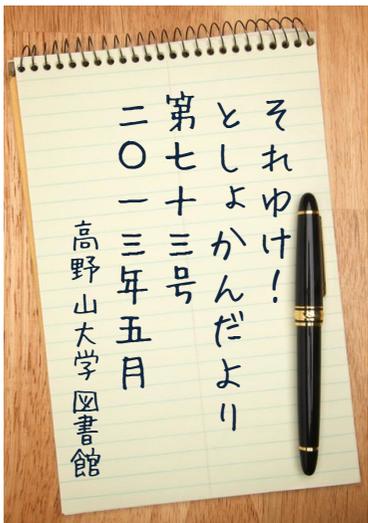
詞書ことばがきにはこの歌を詠んだ経緯が述べられている。旅の途中、野の中にわけのありそうな塚が見えたので、人に尋ねると、中将の墓であると答えた。中将とは誰か、と西行が再度尋ねると、藤原実方の事である、と答えた。それを聞いて西行は悲しく思う。ただでさえしみじみものの哀れを感じているのに、霜のために枯れ枯れになったススキが一面にほのぼのとかすかに見えて、後になってそれを語ろうとしても言葉がないほどに思われて詠んだというのである。

歌意は、朽ちることのない名前だけをこの世に残しておいて、空しく土中にその身は朽ちはててしまった実方の墓を訪ねてみると、ただ枯野のススキが形見として残っているばかりで、まことに悲しく思われることだ、となるだろう。

実方は長徳元年(九九五)陸奥守となつて下り、同四年十一月十三日その地で没した。一条天皇の時、藤原行成と和歌のことで論争し、行成の冠を地になげうったことで天皇の怒りに触れて陸奥へ左遷された人物である。任国の名取郡笠島の道祖神に敬礼しなかつたため落馬して没したという伝説がひろまっていた。ちなみに『百人一首』には実方のはじめての女性に贈った恋情の歌がみえる。

かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじを燃ゆる思ひを

霜のために枯れ枯れになったススキに西行は無常のすがたを見た。「朽ちもせぬその名」と対照させたところに西行の感傷が素直に表現されている。実方は平安時代の三十六歌仙の一人に数えられたすぐれた歌人であった。『枕草子』には彼の名がみえており、清少納言と親密な関係にあったとみられる。そのような華やかな宮廷の世界とは縁遠い都から遠く離れた辺境の地において、都に思いをはせながら寂しく没したであろう実方の無念さ
景を眺めながら、人の世のはかなさを痛切に感じた
のではないか。



ビブリア古書堂の事件手帖に倣う

図書館に所蔵されているビブリア古書店の事件手帖シリーズ、現在4巻まで出ていますがもう目を通しましたか？古本屋が舞台になっているだけあって、多くの本が登場します。ここでは作中に登場する本の中でも高野山大学図書館で所蔵しているものを紹介します。

2013年6月の開館予定表

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2013年7月の開館予定表

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6/17, 7/11…戸田文化講座

	9:00-21:30		13:00-21:30
	9:00-17:00		閉館

な本にすし、本を
れを大る、し、作
ば手と書、し、中
幸にでい、書、し、に
い取でいう、庫、請、エ
でするたの、へ、求、ッ
の、は、行、記、ク、登
の、は、実、号、し、場
皆、想、際、を、書、上
か、さ、像、に、き、で、
けん、以、確、き、で、
とが、上、認、出、検、

第四巻 ～栞子さんと二つの顔～【680/ミ/8-1-4】

江戸川乱歩	江戸川乱歩全集	孤島の鬼	620/エ/7-1
		パノラマ島奇談	620/エ/7-1
		D坂の殺人事件	620/エ/7-1
		押絵と旅する男	620/エ/7-1
		蜘蛛男	620/エ/7-2
		人間椅子	620/エ/7-3
		黄金仮面	620/エ/7-4
		吸血鬼	620/エ/7-6
		黒蜥蜴	620/エ/7-7
		二銭銅貨	620/エ/7-9
		一寸法師	620/エ/7-10
		湖畔亭事件	620/エ/7-11
		人でなしの恋	620/エ/7-11
		幽鬼の塔	620/エ/7-13
		心理実験	620/エ/7-14
		江川蘭子	620/エ/7-16
		殺人迷路	620/エ/7-16
ポオ	モルグ街の殺人事件		632/イ/6-4
(ポー)	黄金虫		600/シ/39-16



第一巻 ～栞子さんと奇妙な客人たち～【680/ミ/8-1-1】

夏目漱石	それから	600/ニ/13-26
		620/ソ/2-4
		620/メ/2-55
	漱石全集	620/ソ/2-1～17
太宰治	晩年	620/Dラ/19

第二巻 ～栞子さんと謎めく日常～【680/ミ/8-1-2】

石井良助	江戸町方の制度	713/エ/3
司馬遼太郎	敦煌	625/イ/3-1
	天平の薨	625/イ/3-3
	ペルシャの幻術師	620/シ/23-68

第三巻 ～栞子さんと消えない絆～【680/ミ/8-1-3】

宮沢賢治	春と修羅	620/Cハ/29
	注文の多い料理店	031/ミ/4-3
		620/Cチ/30
		620/Fチ/34
		620/イ/16-3
	銀河鉄道の夜	031/ミ/4-6
		620/イ/16-3
	風の又三郎	600/チ/5-3
		620/イ/16-23

閲覧室に開架しています、この表紙が目印です。